

シラバス

科目名	フットサル指導法 I		担当者名	森 佳祐	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位	2単位	開講期	選択	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	フットサルの知識を深め、コミュニケーション力、課題解決力を高め、スポーツの楽しさを伝える力を身につけること。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	フットサルの知識と指導法の基礎を身につけ、課題解決方法を考えるられるようになること				
授業概要	フットサルのルールや歴史を学ぶ。 フットサルの技術や戦術を実技を通して学ぶ。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19	実技を通して前期に復習をする。	
	2	フットサルのルールを知る	20	グループ戦術、定位置攻撃「バ、ブロック&コンティニュー」の実技を行う。	
	3	フットサルの歴史、現状を知る	21	グループ戦術、定位置攻撃「パラレラ、ワンツー」の実技を行う。	
	4	フットサルの基本技術を行う	22	グループ戦術、定位置攻撃「クロス、オーバーラップ」の実技を行う。	
	5	フットサルの基本技術を行う	23	グループ戦術、定位置攻撃「ローテーション」の実技を行う。	
	6	ポジション「アラ、フィクソ」の実技を行う	24	グループ戦術、定位置攻撃「ピボ当て」の実技を行う。	
	7	ポジション「ピボ」の実技を行う	25	守備の個人戦術「マーク、アプローチ、プレス」の実技を行う	
	8	ポジション「キーパー」の実技を行う	26	守備のグループ戦術「カバーリング、マークの受け渡し」の実技を行う	
	9	攻守の段階、プレーの原則を知り実技を行う	27	守備のグループ戦術「カバーリング、マークの受け渡し」の実技を行う	
	10	攻守の段階、プレーの原則を知り実技を行う	28	グループ戦術、定位置攻撃「3-1の形」の実技を行う。	
	11	攻撃の個人戦術を行う	29	グループ戦術、定位置攻撃「4-0の形」の実技を行う。	
	12	「カウンター」の実技を行う	30	グループ戦術、定位置攻撃「4-0の形」の実技を行う。	
	13	「カウンター」の実技を行う	31	指導法について学ぶ	
	14	セットプレー「キックイン」の実技を行う	32	指導法について学ぶ	
	15	セットプレー「コーナーキック」の実技を行う	33	指導法について学ぶ	
	16	前期の総括をし、ルール、ポジション、戦術などを再確認する	34	定期試験 筆記	
	17	定期試験	35	各チームで試合を行い、課題を抽出し、その解決メニューを考える	
18	試験の回答の確認をし、フットサルの理解をより深める	36	試験の回答の確認をし、フットサルの理解をより深める		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート	%	成績評価	出席率80%以上S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40 R<<実働実践型学習>>0 A<<主体的参加型学習>>40 G<<海外体感型学習>>20				
講師プロフィール	NPO法人府中アスレティックフットボールクラブ、スポーツ普及推進グループリーダー。スクール事業としては、ジュニアスクールを2004年に開校し、現在では派遣を含め、7箇所にてスクールを運営するスクールリーダー。競技の指導としては、日本女子フットサルリーグ所属の女子トップチームや、東京都U-18選抜の監督などを歴任し、現在は、女子セカンドチームの監督。				

シラバス

科目名	サッカー指導 I		担当者名	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習
認定単位	1単位	開講期		授業時間数
開講学年	1学年	必・選	選択	36時間
授業目的	インテルアカデミーの指導メソッドを理解し、実践できる指導者になるための基礎知識を身に付ける。			
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	指導実践の場で活用するためのノウハウを身につけ、指導のサポートを行う知識を身に付ける。			
授業概要	サッカー指導実習 I での実習で見てきたことや現象を分析し、インテルメソッドの理論や原理原則を用いて指導法を改良しながら習得していく。			
授業 計画 表	授業内容		授業内容	
	1	前期ガイダンス	19	後期ガイダンス
	2	サッカーの特性①	20	ドリルトレーニングの意義
	3	サッカーの特性②	21	個人戦術の理解(攻撃)
	4	インテルというクラブとは	22	個人戦術の理解(守備)
	5	インテルの役割①	23	個人戦術の分析①
	6	インテルの役割②	24	個人戦術の分析②
	7	インテルアカデミーの育成組織①	25	分析とトレーニング計画①
	8	インテルアカデミーの育成組織②	26	分析とトレーニング計画②
	9	インテルアカデミー育成メソッド①	27	トレーニングのオーガナイズ①
	10	インテルアカデミー育成メソッド②	28	トレーニングのオーガナイズ②
	11	インテルアカデミー育成メソッド③	29	コーチング①
	12	インテルアカデミー育成メソッド④	30	コーチング②
	13	インテルアカデミー育成メソッド⑤	31	個人戦術とその関わり①
	14	インテルアカデミー育成メソッド⑥	32	個人戦術とその関わり②
	15	選手への目標設定	33	指導現場への活用方法①
	16	スポーツの価値	34	指導現場への活用方法②
	17	前期まとめ	35	後期まとめ
18	前期まとめ	36	後期まとめ	
成績割合	テスト		学習FB方法	
	学習態度・出席率	80%		
	レポート	20%	成績評価	
	合計	100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>30%			
講師プロフィール				

シラバス

科目名	スポーツ心理学 I		担当者名	小島 邦裕	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期		授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選	必選		
授業目的	心理学の観点から、スポーツ特有のビジネススタイル、スポーツトレーナーとしての指導方法、アスリートの心理、様々なスポーツにおける状況を、身近なケースから心理学に触れる。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	①スポーツの基本的な考え方や理論を心理学から考察する。 ②スポーツ界の現状や課題を様々な視点から考察できるようにする。 ③将来スポーツ界で活躍できる知識を得る。				
授業概要	構成は、前半に授業のPPTで解説。テーマは、1回の授業に対し1つのテーマに絞る。 内容は心理学の用語を基に、スポーツの現場に関する事例から解説する。授業後半にはレポート作成の時間を設け、個人の理解を深める時間とする。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	授業スタイルの解説。自己紹介。	19	社会的心理をスポーツの現場の事例を基に考察1(単純接触効果)	
	2	基礎心理学。心理学とは何かを体験する。(古典的条件づけ)	20	社会的心理をスポーツの現場の事例を基に考察2(マッチング原理)	
	3	基礎心理学。心理学とは何かを体験し、事例から考察する。(古典的条件づけ)	21	社会的心理をスポーツの現場の事例を基に考察3(スキーマ)	
	4	基礎心理学。古典的条件づけのまとめ。スポーツの現場での実践練習1	22	社会的心理をスポーツの現場の事例を基に考察4(ハロー効果)	
	5	基礎心理学。古典的条件づけのまとめ。スポーツの現場での実践練習2	23	社会的心理をスポーツの現場の事例を基に考察5(ステレオタイプ)	
	6	基礎心理学。オペラント条件づけの解説1(オペラント条件づけとは)	24	社会的心理をスポーツの現場の事例を基に考察6(偏見)	
	7	基礎心理学。オペラント条件づけの解説2(報酬)	25	社会的心理をスポーツの現場の事例を基に考察7(スティグマ)	
	8	基礎心理学。オペラント条件づけの解説3(強化・弱体化)	26	行動変容ステージモデルの解説1(無関心期)	
	9	オペラント条件づけの実践。フィットネスクラブでのケース1	27	行動変容ステージモデルの解説1(関心期)	
	10	オペラント条件づけの実践。フィットネスクラブでのケース2	28	行動変容ステージモデルの解説1(準備期)	
	11	ストレスの理論の解説1(ストレスとストレスナー)	29	行動変容ステージモデルの解説1(準備期)	
	12	ストレスの理論の解説2(警告反応期)	30	行動変容ステージモデルの解説1(実行期)	
	13	ストレスの理論の解説3(抵抗期)	31	行動変容ステージモデルの解説1(維持期)	
	14	ストレスの理論の解説4(疲弊期)	32	行動変容ステージモデルの総合理解と実践演習。	
	15	ストレスの理論の解説5(ストレス反応)	33	これまでの学習をもとに、心理学を応用した行動変容を促す取り組みをプレゼンする。	
	16	ストレスの回避の実践(指導者の場合)	34	これまでの学習をもとに、心理学を応用した行動変容を促す取り組みをプレゼンする。	
	17	ストレスの回避の実践(クライアントの場合)	35	これまでの学習をもとに、心理学を応用した行動変容を促す取り組みをプレゼンする。	
	18	これまでのまとめ。テスト(レポート)と解説。	36	これまでの学習のまとめ。レポートの提出。総合評価。	
成績割合	テスト	20	学習FB方法		
	学習態度・出席率	50			
	レポート	30	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 修士課程修了 早稲田大学スポーツ科学研究所 招聘研究員				

シラバス

科目名	スポーツ栄養学 I		担当者名	古旗 照美	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	選択	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	*スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を正しく理解する。 *スポーツ現場における目的に応じた食事の実践方法を習得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	*食事の役割と重要性を理解し、栄養学の基礎とスポーツとの関係について正しく理解できる。 *スポーツ栄養学の観点から、バランスの取れた食事を適量摂るための食品選びができる。				
授業概要	*食事の役割と重要性を理解し、栄養学の基礎とスポーツとの関係について正しい知識を学びます。				
授 業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1	授業のテーマや到達目標及び授業の方法について説明する	19	スポーツ栄養学 I (後半)ガイダンス	
	2	食事の基本スタイル・栄養の役割、自分の食生活について振り返る	20	食物摂取と消化・吸収・代謝①	
	3	栄養アセスメントの意義と方法	21	食物摂取と消化・吸収・代謝②	
	4	身体組成測定の意義と具体的方法、評価方法について	22	スポーツ選手の食事基本スタイル	
	5	運動前・中・後の水分補給	23	アスリートに必要な糖質の摂取、グリコーゲンローディング	
	6	体内のエネルギー、エネルギー供給機構と競技分類	24	アスリートに必要なたんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラルの摂取	
	7	エネルギー消費量の内訳、測定法、推定法などについて	25	増量と減量	
	8	各栄養素の働き:炭水化物(糖質と食物繊維)	26	貧血予防	
	9	各栄養素の働き:脂質	27	女性アスリートの三主徴、RED-S、疲労骨折予防	
	10	各栄養素の働き:たんぱく質	28	試合前、当日、試合後の食事	
	11	各栄養素の働き:ビタミン・ミネラル	29	サプリメントとドーピング	
	12	簡単な食事の整え方	30	ジュニア、大学・プロ、中高年層のスポーツ栄養	
	13	補食の意義と活用方法	31	目的に応じた食事選び	
	14	スポーツ栄養学 I (前半)についてのまとめと質疑応答	32	スポーツ栄養学 I (後半)についてのまとめと質疑応答	
	15	これまでの復習・解説を行い、授業の理解を深める	33	これまでの復習・解説を行い、授業の理解を深める	
	16	期末試験	34	期末試験	
	17	試験の講評と解説、まとめ	35	試験の講評と解説、まとめ	
18	試験結果を踏まえ、質疑応答を行う	36	試験結果を踏まえ、質疑応答を行う		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	課題提出によるフィードバック	
	学習態度・出席率	15%			
	レポート	25%	成績評価	一年間の出席率が80%以上、成績:S…90～100点 A…80～89点 B…70～79点 C…60～69点 D…59点 以下不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>70% G<<海外体感型学習>>20%				
講師プロフィール	公認スポーツ栄養士として、トップアスリートやジュニア選手、スポーツ愛好家など幅広い層へ栄養アドバイスをを行っている。				

シラバス

科目名	基礎ゼミ		担当者名	内ヶ島 蓮哉	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	ゼミ	
認定単位	4単位	開 講 期	必 選	授 業 時 間 数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	スポーツと様々なモノ・コトを組み合わせ、スポーツの新たな価値や魅力を創造する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	1.スポーツ業界の基礎知識を理解する。2.多面的かつ論理的に思考する。3.問題解決に必要な知識・情報を適切な手段を用いて入手し、活用する。4.日本語による多様な表現方法を習得し、明瞭に論じ述べる。5.学びの意味や社会的責務を考え、自らの目標を設定し、自立(律)的に学ぶ。6.自他の文化・伝統を理解し、その差異を尊重する。				
授業概要	業界知識、現状研究などをワークショップやフィールドワーク等で行う。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	ゼミの趣旨について	19	ギャップを埋め、スポーツの価値・魅力を造る スポーツの価値を考える	
	2	チームビルディング	20	考えた価値・魅力が世間のニーズと合致するのインタビュー (フィールドワーク)	
	3	スポーツが好きってどういうこと?	21	考えた価値・魅力が世間のニーズと合致するのインタビュー (フィールドワーク)	
	4	スポーツと運動の違いは?	22	考えた価値・魅力が世間のニーズと合致するのインタビュー (フィールドワーク)	
	5	スポーツの価値・魅力とは?	23	考えた価値・魅力が世間のニーズと合致するのインタビュー (フィールドワーク)	
	6	外国では?	24	インタビューを基に、企画を手直し	
	7	日本と海外のスポーツ文化の違いを調べよう①	25	インタビューを基に、企画を手直し	
	8	日本と海外のスポーツ文化の違いを調べよう②	26	インタビューを基に、企画を手直し	
	9	目的・ターゲット設定①	27	最終プレゼンに向け、準備を進める	
	10	目的・ターゲット設定②	28	最終プレゼンに向け、準備を進める	
	11	世の中の声に耳を傾けよう (フィールドワーク)	29	最終プレゼンに向け、準備を進める	
	12	世の中の声に耳を傾けよう (フィールドワーク)	30	最終プレゼンに向け、準備を進める	
	13	世の中の声に耳を傾けよう (フィールドワーク)	31	最終プレゼンに向け、準備を進める	
	14	世の中の声に耳を傾けよう (フィールドワーク)	32	最終リハーサル	
	15	フィールドワークを基に、 現状と理想のギャップを考える	33	最終リハーサル	
	16	ギャップを埋め、スポーツの価値・魅力を造る スポーツの価値を考える	34	最終プレゼン	
	17	ギャップを埋め、スポーツの価値・魅力を造る スポーツの価値を考える	35	最終プレゼン	
18	ギャップを埋め、スポーツの価値・魅力を造る スポーツの価値を考える	36	まとめ・振り返り		
成績割合	テスト	0%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	40%	成績評価	出席率80%以上 S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>50%				
講師プロフィール	スポーツクラブで勤務経験のある教員が主に担当				

シラバス

科目名	スポーツクラブ演習 I		担当者名	森 佳祐, 柿沼 大翔	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	演習	
認定単位	8単位	開講期		授業時間数	288時間
開講学年	1学年	必・選	必選		
授業目的	社会に出て、貢献できる人材になること				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	実際に直接子供たちを相手に、実践を通して、社会に出て、実際の使える力を身につけること				
授業概要	子どもたちの育成の目標を定め、指導案を作成し、実践し、フィードバックする				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	開校へ向けて準備	19	スクール準備、実践、反省	
	2	開校へ向けての準備	20	スクール準備、実践、反省	
	3	スクール準備、実践、反省	21	スクール準備、実践、反省	
	4	スクール準備、実践、反省	22	スクール準備、実践、反省	
	5	スクール準備、実践、反省	23	スクール準備、実践、反省	
	6	スクール準備、実践、反省	24	スクール準備、実践、反省	
	7	スクール準備、実践、反省	25	スクール準備、実践、反省	
	8	スクール準備、実践、反省	26	スクール準備、実践、反省	
	9	スクール準備、実践、反省	27	スクール準備、実践、反省	
	10	スクール準備、実践、反省	28	スクール準備、実践、反省	
	11	スクール準備、実践、反省	29	スクール準備、実践、反省	
	12	スクール準備、実践、反省	30	スクール準備、実践、反省	
	13	スクール準備、実践、反省	31	スクール準備、実践、反省	
	14	スクール準備、実践、反省	32	スクール準備、実践、反省	
	15	スクール準備、実践、反省	33	スクール準備、実践、反省	
	16	スクール準備、実践、反省	34		
	17	スクール準備、実践、反省	35		
	18	スクール準備、実践、反省	36		
成績割合	テスト		%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付
	学習態度・出席率		100%		
	レポート		%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70 ~79点 C60~69点 D59点以下は不合格
	合計		100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30 R<<実働実践型学習>>30 A<<主体的参加型学習>>30 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	NPO法人府中アスレティックフットボールクラブ、スポーツ普及推進グループリーダー。スクール事業としては、ジュニアスクールを2004年に開校し、現在では派遣を含め、7箇所にてスクールを運営するスクールリーダー。競技の指導としては、日本女子フットサルリーグ所属の女子トップチームや、東京都U-18選抜の監督などを歴任し、現在は、女子セカンドチームの監督。				

シラバス

科目名	リテールマーケティング I		担当者名	高橋 重明	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	選択	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	スポーツビジネスを学ぶにあたっての基本的な、コミュニケーションマーケティング、経営、法律、計数管理など幅広く学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	基礎的なビジネスの知識と実践力を身につけて、できればリテールマーケティングの3級の合格も目標とする。				
授業概要	①小売業の類型 ②マーチャンダイジング ③ストアオペレーション ④マーケティング ④販売経営管理 など。				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	ストアオペレーション④	
	2	オリエンテーション2	20	ストアオペレーション小テスト	
	3	オリエンテーション3	21	マーケティング①	
	4	チームビルディング	22	マーケティング②	
	5	小売業の類型①	23	マーケティング③	
	6	小売業の類型②	24	マーケティング④	
	7	小売業の類型③	25	マーケティング⑤	
	8	小売業の類型④	26	マーケティング小テスト	
	9	小売業の類型小テスト	27	販売経営管理①	
	10	マーチャンダイジング①	28	販売経営管理②	
	11	マーチャンダイジング②	29	販売経営管理③	
	12	マーチャンダイジング③	30	経営分析の基礎	
	13	マーチャンダイジング④	31	法律の基礎	
	14	計算練習(損益分岐点、値入計算、生産性分析など)	32	リテールマーケティング演習①	
	15	マーチャンダイジング小テスト	33	リテールマーケティング演習②	
	16	ストアオペレーション①	34	リテールマーケティング演習③	
	17	ストアオペレーション②	35	期末試験	
	18	ストアオペレーション③	36	まとめ	
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	レジュメを参照しながら講義を聴く。	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	10%	成績評価	前期と後期のテスト、出席率、、課題、授業態度など	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>10% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	私は、30年以上、専門学校生、留学生、大学生、社会人などに経営、マーケティングなどを実践的に教えてきました。				

シラバス

科目名	トレーニング指導 I		担当者名	大森 大	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位	2単位	開講期	選択	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	トレーニングの知識と実技を身に付け、正しいトレーニング指導ができるようになる				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	世代別の心身の特徴を理解しながら、リスク管理ができるトレーニング指導者を育成する。 JATIを取得し、専門的知識を身につけた指導者を目指す				
授業概要	本授業は、現場で活躍できる指導者を育成するために、講義と実技を取り入れながら進めていく。また指導者としてのスキルアップのために学生自身も積極的にトレーニングを実施していきける環境づくりを行っていく。日本トレーニング指導者協会(JATI)の資格取得も目標とし、専門的な知識を身につけていく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション①	19	反応速度(反射神経)トレーニング②	
	2	オリエンテーション②	20	有酸素トレーニング①	
	3	トレーニングの基礎知識①(原理原則)	21	有酸素トレーニング②	
	4	トレーニングの基礎知識②(疾患・リスク)	22	コンディショニングの基礎知識①	
	5	トレーニングの基礎知識③(トレーニング変数)	23	コンディショニングの基礎知識②	
	6	トレーニングの基礎知識④(世代別)	24	コンディショニング①	
	7	トレーニングの基礎知識⑤(世代別)	25	コンディショニング②	
	8	トレーニングの基礎知識⑥(世代別)	26	コンディショニング③	
	9	トレーニングの基礎知識⑦(心肺持久力)	27	目標運動強度の分析	
	10	下半身のトレーニング①	28	目標運動強度の分析(発表実習)①	
	11	下半身のトレーニング②	29	目標運動強度の分析(発表実習)②	
	12	上半身のトレーニング①	30	プログラムの作成	
	13	上半身のトレーニング②	31	プログラムの解説(講義実習)①	
	14	体幹のトレーニング①	32	プログラムの解説(講義実習)②	
	15	体幹のトレーニング②	33	プログラムの実施	
	16	アジリティトレーニング①	34	プログラムの指導実習①	
	17	アジリティトレーニング②	35	プログラムの指導実習②	
	18	反応速度(反射神経)トレーニング①	36	まとめ	
成績割合	テスト	%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	70%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50 R<<実働実践型学習>>20 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	SOSアスリートラボ代表、KUROBEアクアフェアリーズトレーナー、国士舘大学女子バレーボール部S&Cコーチ、春日部共栄高校女子バレーボール部S&Cコーチ、三浦学苑サッカー部フィジカルコーチ、高岡商業野球部S&Cコーチ、富山商業サッカー部フィジカルコーチ				

シラバス

科目名	ホスピタリティー		担当者名	相川 奏恵	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期		授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選	必選		
授業目的	感じの良いコミュニケーション力と人間力を身につける。ホスピタリティマインドを醸成し、質の高いサービスを提供できる知識とスキルを身につける				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ■適切なコミュニケーション力と人間力を身につける ■ホスピタリティマインドやビジネスマナーを身につけ、就活力を形成する ■様々な業界のホスピタリティや顧客心理の研究を通して視野を拡げ、やりがいあるキャリア形成を目指す 				
授業概要	ワークを通して自他の理解を深め、望ましい表現力と傾聴力を養い適切なコミュニケーション力を身につける。様々な業界のホスピタリティや顧客心理の研究を通して視野を拡げ、やりがいあるキャリア形成を目指す。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション・マナーの基本	19	高齢社会・コロナ禍のホスピタリティ	
	2	人間力とマナー・メラビアンの法則	20	エンタメ産業のホスピタリティ	
	3	挨拶返事・身だしなみ・表情・態度・ことば遣い	21	中小企業のホスピタリティ	
	4	敬語①	22	宿泊産業のホスピタリティ	
	5	敬語②	23	交通産業のホスピタリティ	
	6	敬語③	24	医療現場のホスピタリティ	
	7	敬語テスト・解説	25	顧客心理①	
	8	思いやりのある言葉	26	顧客心理②	
	9	表現力を身につける(気持ちを表現する力)	27	顧客心理③	
	10	TDL①	28	顧客心理④	
	11	TDL②	29	顧客心理⑤	
	12	TDL③	30	顧客心理⑥	
	13	自己理解①	31	マナプロ検定対策①	
	14	自己理解②	32	マナプロ検定対策②	
	15	他者理解①	33	マナプロ検定対策③	
	16	他者理解②	34	就活の進め方	
	17	自己表現	35	就活のマナー	
	18	相互理解	36	自己分析・自己PR	
成 績 割 合	テスト	80%	学習FB方法	個人ワーク・グループワーク発表評価とアドバイス、定期テスト解説	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50 R<<実働実践型学習>>20 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	エアーニッポン(株)にてキャビンアテンダント業務及び教育訓練教官業務(新人・中堅社員研修、緊急保安訓練教育とマニュアル作成)を経て、現在は日本講師協会にて電話応対・課題解決・新入社員研修等を実施。実績は環境庁・東京都福祉保健局・八王子市役所・埼玉県産業振興公社・消費生活支援センター・日本旅行・りそな総研・みずほ不動産・SEGA・三菱ビルテクノサービス等				

シラバス

科目名	ビジネススキル I		担当者名	内ヶ島 蓮哉、米林 曜	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期		授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選	必修		
授業目的	自分の卒業ビジョンを作成し、基本的なビジネススキル(働くうえで必要な能力のこと)を身に付け、進級・卒業・就職という大きな流れを意識しそれぞれの夢をかなえる。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	1年次における、カリキュラムの理解とともに、卒業ビジョンを作成し、それに必要な学びをテクノスの中で見つけ、実践していく。				
授業概要	社会人としてのルールや学校生活を送るなかでのルールを座学方式で学ぶ				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	後期の講義内容に関して・ビジネスマナー②確認	
	2	自己紹介(聞き手はリアクションを取る練習)	20	企業・仕事求める人材像・力、インターンシップ再告知	
	3	ビジネス用メールルールとメルアド作成	21	志望動機の説明➡考え、文章化する	
	4	職業意識(働くことの意義・意味を考える。GD社会人と学生の違い)	22	発表の仕方レクチャー➡志望動機の発表	
	5	社会人として必要なコミュニケーションとは？	23	就活スケジュール復習➡説明会参加の練習(マナー、質問の仕方)	
	6	第一印象の大切さ、挨拶・マナー①(GDマナーとルールの違いの復習、SNSの注意)	24	挨拶・マナー③ メール・電話	
	7	業界研究①(国内外業界・業種)・インターン説明	25	面接指導・面接の流れ	
	8	業界研究②(職業・職種・組織)	26	身だしなみ確認・立ち居振る舞い	
	9	就活スケジュール説明・就活とは？・求人の種類・選考の種類	27	履歴書書き方説明➡書く組 / オンライン面接練習組	
	10	自己分析・自分の強みと弱みについて知る、学チカ考える、就活サイト登録・インターン予約	28	求人票の見方➡履歴書書く組 / オンライン面接練習組	
	11	会社訪問の方法 / 必要な資格や知識の確認と説明	29	トークセッション(OBOGを招いて:就活生対象)	
	12	自己分析ワーク➡自己PR作成	30	ES説明、履歴書の提出書仕方 / 面接練習	
	13	業界or職種研究&自己PR発表①	31	GDの説明と練習	
	14	業界or職種研究&自己PR発表②	32	GDの練習	
	15	オンライン説明会・面接での注意	33	面接練習	
	16	業界志望動機作成方法の説明	34	面接練習	
	17	自己PR動画の撮影	35	確認テスト(履歴書)・まとめ1	
	18	前期の振り返りと後期の課題発見	36	履歴書の注意点・まとめ2	
成績割合	テスト	10%	学習FB方法	ワークシートを基にした面談 前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	80%			
	レポート	10%	成績評価	出席率80%以上 S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格出席	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>30%				
講師プロフィール	航空会社のグランドハンドリング部門、グランドスタッフ部門で勤務経験のある教員が担当。				

シラバス

科目名	サッカー指導実習 I		担当者名	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習
認定単位	8単位	開 講 期		授 業 時 間 数
開講学年	1学年	必・選	選択	288時間
授業目的	インテルアカデミーの指導メソッドを理解し、指導の現場で実践できる指導者になる。			
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	指導実践の場で活用するためのノウハウを身につけ、指導のサポートを行うためのスキルを身に付ける。			
授業概要	サッカー指導 I で学んだインテルメソッドの理論や原理原則を用いて実際にどのように活用されているのかを実習形式で学ぶ。			
授 業 計 画 表	授業内容		授業内容	
	1	前期ガイダンス	19	後期ガイダンス
	2	前期ガイダンス	20	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	3	インテルアカデミージャバントレーニング参加	21	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	4	インテルアカデミージャバントレーニング参加	22	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	5	インテルアカデミージャバントレーニング参加	23	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	6	インテルアカデミージャバントレーニング参加	24	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	7	インテルアカデミージャバントレーニング参加	25	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	8	インテルアカデミージャバントレーニング参加	26	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	9	インテルアカデミージャバントレーニング参加	27	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	10	インテルアカデミージャバントレーニング参加	28	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	11	インテルアカデミージャバントレーニング参加	29	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	12	インテルアカデミージャバントレーニング参加	30	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	13	インテルアカデミージャバントレーニング参加	31	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	14	インテルアカデミージャバントレーニング参加	32	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	15	インテルアカデミージャバントレーニング参加	33	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	16	インテルアカデミージャバントレーニング参加	34	インテルアカデミージャバントレーニングサポート
	17	前期まとめ	35	後期まとめ
	18	前期まとめ	36	後期まとめ
成績割合	テスト		学習FB方法	
	学習態度・出席率	80%		
	レポート	20%	成績評価	
	合計	100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>30%			
講師プロフィール				

シラバス

科目名	テーピング I		担当者名	高橋 聖	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位	1単位	開 講 期	選択	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	テーピングの専門的知識を身に付けた人材になること。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	テーピングの基本を学び、実施することが可能になること、また実際にスポーツ現場を仮定とし、条件に合わせて応用的なテーピングが実施することが可能になる。				
授業概要	初めに身体構造及び関節について、テーピングの基本を講義にて学ぶ。その後各部位のテーピングについて講義と実技を合わせながら行う。また各部位のテーピングでは、関節構造・怪我発生機序・損傷部位・状態の評価方法・基本的及び応用的テーピングの流れで実施する。				
授 業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1	オリエンテーション グループ編成	19	応用テーピングについて(講義)(1)	
	2	オリエンテーション グループ編成	20	応用テーピングについて(講義)(2)	
	3	運動器の解剖と機能について(1)	21	今までのまとめ復習(1)	
	4	運動器の解剖と機能について(2)	22	今までのまとめ復習(2)	
	5	テーピングについて(1)	23	テーピングの基本(実技)(1)	
	6	テーピングについて(2)	24	テーピングの基本(実技)(2)	
	7	テーピングの基本(講義)(1)	25	テーピングについて(実技)(1) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む	
	8	テーピングの基本(講義)(2)	26	テーピングについて(実技)(2) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む	
	9	足関節テーピングについて(講義)(1)	27	テーピングについて(実技)(3) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む	
	10	足関節テーピングについて(講義)(2)	28	テーピングについて(実技)(4) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む	
	11	膝関節テーピングについて(講義)(1)	29	テーピングについて(実技)(5) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む	
	12	膝関節テーピングについて(講義)(2)	30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む	
	13	肩関節テーピングについて(講義)(1)	31	筆記試験	
	14	肩関節テーピングについて(講義)(2)	32	テーピング復習・練習(1)	
	15	肘関節テーピングについて(講義)(1)	33	テーピング復習・練習(2)	
	16	肘関節テーピングについて(講義)(2)	34	実技試験(1)	
	17	手関節テーピングについて(講義)(1)	35	実技試験(2)	
	18	手関節テーピングについて(講義)(2)	36	まとめ	
成績割合	テスト	30%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	10%	成績評価	S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下(不合格)	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	柔道整復師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場や整骨院などで、サッカー・野球・空手・バレー・プロソフトボール・プロ格闘家・テニス・ゴルフ・卓球・バレエ・フィギュアスケートなど幅広い競技で、テーピングを始め、トレーニングやストレッチ・治療のサポートをしております。				

シラバス

科目名	マッサージ・ストレッチング I		担当者名	町田 秀樹	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位	1単位	開 講 期	選択	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	安全を第一に考えたストレッチングや運動指導ができるようにする。また、マッサージを行うにあたり、基本的な知識を理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	安全な指導を行うためにストレッチングの基本知識と実際の関節の動きを再確認することで、安全の確実性を上げる。また、マッサージや整体業界に進むことを考える人には、身体を触ることの責任や怖さの理解を深める。その責任は運動やスポーツの指導にも共通する。				
授業概要	体の基本的な機能や構造を学ぶことで、本来の体の動きや特性の理解を深める。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	ストレッチング導入	19	バイオメカニクス導入	
	2	ストレッチングの種類・意味について	20	てこの原理 第一種テコから第三種テコ	
	3	ストレッチングの基本的知識/筋紡錘と腱紡錘における運動ニューロンと感覚ニューロンについて①	21	てこの原理 関節と運動の説明。	
	4	ストレッチングの基本的知識/筋紡錘と腱紡錘における運動ニューロンと感覚ニューロンについて②	22	解剖学的テコ トルクなど	
	5	ストレッチの基本的知識/ストレッチングの基本的知識/筋紡錘と腱紡錘における運動ニューロンと感覚ニューロンについて③	23	解剖学的テコ 作用の角度	
	6	ストレッチの基礎知識/セルフストレッチの説明。拮抗筋や相反性神経支配の説明。	24	運動の法則と身体の動き	
	7	ストレッチの基本的知識/パートナーストレッチについてここではPNFについて。	25	筋と骨・多関節運動と単関節運動	
	8	ストレッチの基本的知識/ストレッチの効果	26	筋の弾性要素と弾性エネルギー	
	9	ストレッチの基礎知識/全般を簡単にふりかえり	27	着地衝撃とその緩和法	
	10	関節の可動域と動きの名称の確認	28	パワーの発揮とエネルギーの伝達	
	11	筋肉の起始・停止を意識したストレッチについて	29	運動と流体力	
	12	拮抗筋を利用したストレッチ。動きの制限の必要性。大胸筋・広背筋を例に	30	基本的動きの分析 座る・歩く・走る	
	13	ケガ予防とストレッチングとマッサージ	31	スポーツの体の動きを考える	
	14	確実な関節の動かし方をする	32	安全な体の使い方考える	
	15	ストレッチングは解剖学的事実が基本であることを確認する	33	復習	
	16	復習	34	復習	
	17	復習・まとめ	35	確認テスト	
18	確認テスト	36	前期・後期の総合まとめ		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート				
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>50% A<<主体的参加型学習>>30% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	2002年より整体業の店を開業しています。劇的に痛みを取ることで定評があります。著書に「肩が痛い」「腕が上がらない」人のお助けBOOKが2022年9月・主婦の友社。「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が2015年3月・翔泳社から出版されています。				

シラバス

科目名	スイミング指導 I		担当者名	加藤 健志	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位	2単位	開 講 期	選択	授 業 時 間 数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	水泳種目に於いて、健康維持増進として適切な指導ができる知識を得る				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。				
授業概要	①プールサイドでのドライランドトレーニング(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 ②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	技術トレーニングのねらい	
	2	オリエンテーション2	20	技術トレーニングのねらい	
	3	オリエンテーション3	21	技術トレーニングのねらい	
	4	トレーニング理論	22	技術トレーニングの課題	
	5	トレーニング理論	23	技術トレーニングの課題	
	6	トレーニング理論	24	技術トレーニングの課題	
	7	水泳の体カトレーニング法	25	技術トレーニングの課題	
	8	水泳の体カトレーニング法	26	技術トレーニングの実践	
	9	水泳の体カトレーニング法	27	技術トレーニングの実践	
	10	水泳の体カトレーニング法	28	技術トレーニングの実践	
	11	水泳の体カトレーニング法	29	技術トレーニングの実践	
	12	水泳のメンタルトレーニング	30	水泳競技基礎・ルール	
	13	水泳のメンタルトレーニング	31	水泳競技基礎・ルール	
	14	水泳のメンタルトレーニング	32	後期実技試験 対策	
	15	水泳のメンタルトレーニング	33	後期実技試験 100m個人メドレー	
	16	テスト 対策	34	確認テスト・まとめ1	
	17	泳カテスト	35	確認テスト・まとめ2	
	18	テストの振り返り	36	確認テスト・まとめ3	
成績割合	テスト	30	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30			
	レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>20%				
講師プロフィール	JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している。				

シラバス

科目名	救急処置法 I		担当者名	石井 英一	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位	1単位	開講期		授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選	選択		
授業目的	質の高い心肺蘇生とAEDの習得を目指し、傷病者の「社会復帰」をキーワードに「救命の連鎖」が途切れることのない社会を目指します。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	日本ライフセービング協会の「BLS資格」取得を目指します。				
授業概要	心肺蘇生法はじめとする応急手当に対する正しい理解、各種応急手当の実施要領について実施していく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス	19	心停止の分類と心室細動という不整脈(2)	
	2	救命の連鎖(1)	20	心停止の分類と心室細動という不整脈(3)	
	3	救命の連鎖(2)	21	心室細動の治療とAEDの必要性(1)	
	4	日本の実状(1)	22	心室細動の治療とAEDの必要性(2)	
	5	日本の実状(2)	23	心室細動の治療とAEDの必要性(3)	
	6	呼吸・循環のしくみ(1)	24	心肺蘇生の実施手順(1)	
	7	呼吸・循環のしくみ(2)	25	心肺蘇生の実施手順(2)	
	8	呼吸・循環のしくみ(3)	26	心肺蘇生の実施手順(3)	
	9	血液の成分と役割(1)	27	気道異物挿入除去(1)	
	10	血液の成分と役割(2)	28	気道異物挿入除去(2)	
	11	血液の成分と役割(3)	29	気道異物挿入除去(3)	
	12	心肺蘇生の理論(1)	30	溺水事故での心肺蘇生(1)	
	13	心肺蘇生の理論(2)	31	溺水事故での心肺蘇生(2)	
	14	心肺蘇生の理論(3)	32	溺水事故での心肺蘇生(3)	
	15	胸骨圧迫の重要性(1)	33	実技テスト	
	16	胸骨圧迫の重要性(2)	34	学科テスト	
	17	胸骨圧迫の重要性(3)	35	振り返り	
	18	心停止の分類と心室細動という不整脈(1)	36	まとめ	
成績割合	テスト	30%	学習FB方法	前期・後期 成績表の送付	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	20%	成績評価	出席率80%以上 S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>40 A<<主体的参加型学習>>30 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	公益財団法人 日本ライフセービング協会指導員 日本赤十字社 指導員				

シラバス

科目名	機能解剖学		担当者名	町田 秀樹	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期	選択	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	運動の指導者として必要な知識を得る。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ることで、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。				
授業概要	解剖学の基礎				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	機能解剖学の導入	19	脳・神経系の導入	
	2	骨・関節の種類と動き	20	神経組織	
	3	骨格の名称①/頭蓋骨	21	神経筋接合部	
	4	骨の名称②/脊柱	22	シナプスと神経伝達物質	
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など	23	交感神経と副交感神経	
	6	筋肉について導入	24	脳神経系	
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴	25	大脳・間脳	
	8	骨格筋の微細構造	26	脳幹・小脳・脊髄	
	9	骨格筋の名称①/前面	27	髄膜	
	10	骨格筋の名称②/前面・後面	28	上行伝導路	
	11	骨格筋の名称③/後面	29	下行伝導路	
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ	30	脊髄反射	
	13	小さな骨・骨格筋の名称	31	脊髄神経系支配領域について	
	14	骨格筋・起始停止	32	伸張性反射について	
	15	骨格筋の収縮と関節の動き	33	復習	
	16	復習	34	復習・まとめ	
	17	復習・まとめ	35	確認テスト	
	18	確認テスト	36	前期・後期の総合まとめ	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D 59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>70 A<<主体的参加型学習>>10 G<<海外体感型学習>>0				
講師プロフィール	2002年より整体業の店を開業しています。劇的に痛みを取ることで定評があります。著書に、「肩が痛い」「腕が上がらない」人のお助けBOOKが2022年9月・主婦の友社。「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が2015年3月・翔泳社から出版されています。				

シラバス

科目名	コンピュータ実習 I		担当者名	榎村 麻里子	
学科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位	2単位	開講期	選択	授業時間数	72時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	情報リテラシー知識・ビジネスで必要とされるPCスキルを身に付け、積極的な活用が可能になる				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	パソコンの基礎知識、インターネットでの情報検索方法、Microsoft Office基本操作を学び、適切な情報活用ができるようになる。 ビジネスで必須のキータッチの習得、ビジネス文書・企画書・請求書などの書類作成スキルを目標とする。				
授業概要	パソコン実習を通じて、キーボード操作を身に付ける。 Word: 基本的なビジネス文書の形式を覚え、現場で必要とされる実践的なファイルを作成する。 Excel: 簡単な表作成、数式、関数を学び、注文書・請求書などの基本書類を作成する。 PowerPoint: 他科目の発表で活用できるプレゼンテーションスキルを身に付ける。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	教室環境の確認 ガイダンス	19	基礎関数、表示形式(2)	
	2	Windowsの基本操作	20	基礎関数、表示形式(3)	
	3	今後のスケジュール確認	21	その他の関数	
	4	文字の入力、アプリケーションの知識	22	グラフの作成(1)	
	5	Wordの概要、文章の入力と編集	23	グラフの作成(2)	
	6	ビジネス文書の作成・編集(1)	24	グラフの作成(3)	
	7	ビジネス文書の作成・編集(2) 拡張書式	25	グラフの作成(4)	
	8	表の作成(1)	26	データベースの基礎(1)	
	9	表の作成(2)	27	データベースの基礎(2)	
	10	図形、グラフィックの活用(1)	28	データベースの基礎(3)	
	11	図形、グラフィックの活用(2)	29	総合問題	
	12	地図作成	30	後期テスト	
	13	ポスター作成	31	テスト解説	
	14	前期テスト	32	Excel応用関数(1)	
	15	テスト返却 まとめ	33	Excel応用関数(2)	
	16	Excelの概要、四則演算	34	Excel応用関数(3)	
	17	四則演算、絶対参照	35	Excel応用関数(4)	
	18	基礎関数、表示形式(1)	36	まとめ	
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	課題提出による評価のフィードバック	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	課題提出:30%	成績評価	出席率80%以上 S:90~100点、A:80~89、B:70~79点、C:60~69点、D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	コンピュータ会社で勤務した経験を持ち、大学・専門学校・企業研修でパソコン実習、情報系の資格講座を中心としての講師経験も長い。実務現場で必要とされるパソコンスキルを身に付けられるような授業を展開する。				

シラバス

科目名	運動生理学		担当者名	小林 啓三	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	後期	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	2学年	必・選	選択		
授業目的	運動生理学は、解剖学と生理学を基礎とする応用科学である。身体にとって重要なのは、生理機能に大きな変動がなく常に一定に保たれていることである。しかし、運動は身体に大きな影響を与え、ストレスを生じさせる。運動指導者として、運動が生理機能に与える仕組みを理解するとともに、運動による身体への好ましい効果と障害発生の予防についての知識を深める。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	生命の基本は「体内の環境は一定に保たれる」とするhomeostasisである。運動は、このhomeostasisに揺さぶりをかけ、生体に「歪」を生じさせるストレスラーでもある。この基本を踏まえ、運動実施時や運動終了後さらに適切な運動習慣によって身体の諸生理機能(神経系、呼吸循環器系、筋系、内分泌系等…系)がどのように対応しているかを説明できる。併せて、これらの各機能が相互に情報交換しあってどのように対応しているかについても解説できることを目標とする。				
授業概要	運動時のすべての生体機能の変化を一つにまとめて表すことは困難であるため、身体の機能「系」ごとに分類して授業を構成し、運動に対して最も大切な働きをまとめ、それに関連性の強い要因を簡潔的に提示し、運動指導者を志すものとして必要な基礎的事項について解説する。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	「運動生理学」とは何かを理解する。授業では、運動やトレーニングが生体に及ぼす効果を「ストレス学説」をもとに解説する。	19	運動と酸素摂取量の関係を学び、「酸素債」や「酸素負債」について理解する。また、運動強度と「無酸素性作業閾値」についても解説する。	
	2	身体の恒常性を調節する2つの主要な機能である神経系とホルモンについて学ぶと共に、神経系並びにホルモンの概要について解説する。	20	酸素の運搬役である血液に機能について学ぶ。ここでは、肺や組織でのガス交換とその仕組みを解説する。	
	3	運動動作と神経の関係について学ぶ。具体的には、随意運動と不随意運動の違いを知り、運動に対する中枢神経系のはたらきを解説する。	21	ヘモグロビンの機能について学ぶ。ここでは、「ヘモグロビンの酸素解離曲線」並びに、運動時における酸素運搬能の特性を解説する。	
	4	滑らかな動きをつくる神経系の役割と仕組みを学ぶ。生体の「制御系」に関して、中枢での情報処理と末梢での情報処理の仕組みを解説する。	22	心臓の自動性や心臓の「刺激伝導系」について説明する。さらに、心臓に対する自律神経系の働きや調節の仕組みについて解説する。	
	5	体の内外の状況を知る感覚器を学ぶ。「ウェーバーの法則」を理解すると共に、「ウンチとオナラが出そう」の区別ができる理由を考える。	23	心拍数を調節している心臓と自律神経に関係を説明しながら、心臓に対する自律神経系の働きや調節の仕組みなどについて解説する。	
	6	運動器からの情報と運動制御について学ぶ。「筋紡錘」や「腱器官」の構造と機能について理解し、ストレッチに係わる反射機構も説明する。	24	循環調節の仕組みの「心臓中枢」「自律神経」「血管の対応による血流再配分」に注目し、運動時の循環系の統合された調節機構を解説する。	
	7	運動器からの情報と運動制御の仕方を学ぶ。特に、受容器の感受性を維持する「α-γ連関」について、その仕組みと役割について解説する。	25	トレーニングによる循環機能の適応について説明しながら、心機能や血管の適応について解説する。	
	8	滑らかな動きを得るための神経回路に注目し、主動筋と拮抗筋に対する神経回路の「Ia抑制」と「Ib抑制」の仕組みについて解説する。	26	冠循環の特徴を説明することにより、運動と心臓に係わる事故の可能性を解説する。併せて、AED重要性を説く。	
	9	骨格筋について学ぶ。ここでは、筋の収縮に直接関係する微細構造まで知り、その構造が筋収縮にどのような役割をするかを解説する。	27	血圧の役割並びに運動との関係を説明する。筋収縮が血液循環に及ぼす効果のほか、応急処置での「体位管理」の生理的理由も解説する。	
	10	骨格筋の収縮と弛緩の過程に注目し、重要な動きをするカルシウムについて説明し、「興奮-収縮連関」や「滑走説」についても解説する。	28	運動終了後にも循環系はある一定の強さで働き続ける必要性を説明し、クールダウンの必要性や静脈還流量の重要性を解説する。	
	11	骨格筋の収縮様式(静的・動的、短縮性・伸張性)などを説明し、運動における体の動きと収縮動態との関係を解説する。	29	体液の役割とその調節について説明する。ここでは、体液の調節臓器である腎臓の機能を学ぶと共に体液浸透圧の恒常性について解説する。	
	12	筋肉の長さや力の関係を学ぶ。発揮される力が骨格筋の状態により異なる「長さ-張力曲線」と、トレーニングへの応用などを解説する。	30	体液の浸透圧とかわりの深いスポーツドリンクの特徴について、浸透圧の面から解説する。併せて、体の内側と外側を説明する。	
	13	筋収縮で発揮される力のうち、「最大筋力」と「最大随意筋力」の違いと共に、「最大随意筋力」を左右する因子について解説する。	31	体温が37℃なのかの生理学的理由などを説明しながら、体温調節の仕組みや汗腺と発汗などについて解説する。	
	14	発揮される力のうち、「筋パワー」や「瞬発力」といった用語の内容並びに、瞬発力やパワーを高めるためのトレーニング方法を解説する。	32	運動時の体温の変動について学ぶ。ここでは、「熱中症」と共に、障がい者スポーツにおける体温の管理について解説する。	
	15	骨格筋が脊髄のα運動神経によって支配されていることを説明し、「運動単位(NMU)」並びに筋力発揮とNMUの関係について解説する。	33	生体におけるエネルギー源であるATP供給機構を説明すると共に、運動強度とエネルギー供給機構の関係について解説する。	
	16	筋収縮に参加する運動単位と筋力の関係を学ぶ。ここでは、運動単位の特徴を知ると共に筋収縮に参加する様相「サイズの原理」を解説する。	34	「有酸素性代謝」と「無酸素性代謝」について説明し、それぞれの代謝が運動強度とどのような関係にあるかを解説する。	
	17	随意最大筋力の発揮に関する中枢神経系の関与のほか、筋トレーニングによる筋力増加の背景にある生理学について解説する。	35	運動強度の表示法(RMR, METs, RPEなど)を説明する。併せて、身体活動のエネルギー必要量や消費量の算出方法を説く。	
18	運動と酸素摂取量の関係を学び、「酸素債」や「酸素負債」について説明する。また、運動強度と「無酸素性作業閾値」についても解説する。	36	「酸素消費量」、「運動強度」、「消費エネルギー量」等の算出方法を説明すると共に、体重移動の運動と物体移動の運動との違いを解説する。		
成績割合	テスト	期末試験時に筆記試験を行います。(成績割合 25%)	学習FB方法		
	学習態度・出席率	授業時における受講態度のほか、授業準備や整理整頓などの授業に対する協力等(成績割合 25%)			
	レポート	授業毎に授業内容に関連した課題を提示する。評価は、課題に対する内容や文章量などの観点から採点します。(成績割合)	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	1949年 北海道生まれ 体育系大学を卒業し、医科大学で生理学と運動生理学について研究に従事する。その後、体育系大学にて教鞭をとり、多くの保健体育教師やスポーツトレーナーを育成する。				

シラバス

科目名	リテールマーケティングⅡ		担当者名	高橋 重明	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	スポーツビジネスを学ぶにあたって、ビジネススキルⅠを基礎により実践的なマーケティング、経営、法律、会計などを学ぶ。将来のビジネスにおける管理職や店長職などをを目指す。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	リテールマーケティング(販売士2級)レベルの勉強から意欲的な学生は、検定の合格を目指す。				
授業概要	①小売業の類型応用 ②マーチャンダイジング応用 ③ストアオペレーション応用 ④マーケティング応用 ⑤販売経営管理応用 ⑥法律 ⑦会計 ⑧労務管理など				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	小売業の類型応用①	19	マーケティング応用④	
	2	小売業の類型応用②	20	マーケティング応用⑤	
	3	小売業の類型応用③	21	マーケティング小テスト	
	4	小売業の類型応用④	22	販売経営管理応用①	
	5	小売業の類型応用小テスト	23	販売経営管理応用②	
	6	マーチャンダイジング応用①	24	販売経営管理応用③	
	7	マーチャンダイジング応用②	25	販売経営管理応用④	
	8	マーチャンダイジング応用③	26	販売経営管理応用⑤	
	9	マーチャンダイジング応用④	27	販売経営管理小テスト	
	10	計数管理(損益分岐点分析、値入の計算、売場の計数管理など)	28	ビジネス法務の基礎	
	11	ストアオペレーション応用①	29	経営分析の基礎	
	12	ストアオペレーション応用②	30	リテールマーケティング2級対策	
	13	ストアオペレーション応用③	31		
	14	ストアオペレーション応用④	32		
	15	ストアオペレーション小テスト	33		
	16	マーケティング応用①	34		
	17	マーケティング応用②	35		
18	マーケティング応用③	36			
成 績 割 合	テスト	80%	学習FB方法	決まったテキストはないので毎回、レジュメを参照しながら勉強する。	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート	10%	成績評価	前期と後期試験、課題、授業態度・出席率など	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講師は、専門学校で学生、留学生、大学生、社会人と30年以上にわたりマーケティング経営について教育してきた。				

シラバス

科目名	トレーニング指導Ⅱ		担当者名	大森 大	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	トレーニングの知識と実技を身につけ、正しいトレーニング指導ができるようになる				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	世代別の心身の特徴を理解しながら、リスク管理ができるトレーニング指導者を育成する。 □ 健康運動実践指導者を取得し、専門的知識を身につけた指導者をを目指す				
授業概要	本授業は、現場で活躍できる指導者を育成するために、講義と実技を取り入れながら進めていく。また指導者としてのスキルアップのために学生自身も積極的にトレーニングを実施していける環境づくりを行っていく。健康運動実践指導者の資格取得も目標とし、専門的な知識を身につけていく。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	BIG3の習得	19	トレーニング指導テスト	
	2	BIG3の習得	20	プログラムの作成	
	3	BIG3の習得	21	プログラムの作成	
	4	BIG3のテスト	22	プログラムの解説(講義実習)	
	5	BIG3のテスト	23	プログラムの解説(講義実習)	
	6	クリーンの習得	24	プログラム作成テスト	
	7	クリーンの習得	25	プログラム作成テスト	
	8	クリーンのテスト	26	プログラム指導(講義)	
	9	補助種目の習得	27	プログラム指導(講義)	
	10	補助種目の習得	28	プログラム指導(実習)	
	11	補助種目の習得	29	プログラム指導(実習)	
	12	補助種目のテスト	30	プログラム指導テスト	
	13	補助種目のテスト	31	プログラム指導テスト	
	14	トレーニング指導(講義)	32	総合演習テスト	
	15	トレーニング指導(講義)	33	総合演習テスト	
	16	トレーニング指導(実習)	34		
	17	トレーニング指導(実習)	35		
18	トレーニング指導テスト	36			
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート	10%	成績評価	出席率80%以上	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>50 A<<主体的参加型学習>>20 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	SOSアスリートラボ代表、KUROBEアクアフェアリーズトレーナー、国土舘大学女子バレーボール部S&Cコーチ、春日部共栄高校女子バレーボール部S&Cコーチ、三浦学苑サッカー部フィジカルコーチ、高岡商業野球部S&Cコーチ、富山商業サッカー部フィジカルコーチ				

シラバス

科目名	テーピングⅡ		担当者名	高橋 聖	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	テーピングの専門的知識を身に付けた人材になること。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	テーピングの基本を学び、実施することが可能になること、また実際にスポーツ現場を仮定とし、条件に合わせて応用的なテーピングが実施することが可能になる。				
授業概要	初めに身体構造及び関節について、テーピングの基本を講義にて学ぶ。その後各部位のテーピングについて講義と実技を合わせながら行う。また各部位のテーピングでは、関節構造・怪我発生機序・損傷部位・状態の評価方法・基本的及び応用的テーピングの流れで実施する。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション□ グループ編成	19		
	2	グループごとに実践計画を立てる (対象者・対象学科・選択理由)	20		
	3	グループごとに対象者の状態を把握・共有する (主訴・部位・症状)	21		
	4	グループごとに実施テーピングを考察する (巻き方・テープの種類)	22		
	5	グループごとに実施テーピングを練習する (効果・出来栄え・時間)	23		
	6	グループごとに対象者にテーピングを実施する (実施・撮影・議事録)	24		
	7	グループごとに実践報告を実施する (対象・やり方・実践内容・次への課題)	25		
	8		26		
	9		27		
	10		28		
	11		29		
	12		30		
	13		31		
	14		32		
	15		33		
	16		34		
	17		35		
18		36			
成 績 割 合	テスト	0%	学習FB方法		
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	40%	成績評価	S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下(不合格)	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>30% A<<主体的参加型学習>>30% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	柔道整復師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場や整骨院などで、サッカー・野球・空手・バレー・プロソフトボール・プロ格闘家・テニス・ゴルフ・卓球・バレエ・フィギュアスケートなど幅広い競技で、テーピングを始め、トレーニングやストレッチ・治療のサポートをしております。				

シラバス

科目名	マッサージ・ストレッチングⅡ		担当者名	町田 秀樹	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	バイオメカニクスや基礎的知識を知ることで、運動やスポーツの適切な指導につなげる。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	運動やスポーツの指導において個々の適性を見抜き、その人にあった指導を導き出すために、人間の動きや重心の変化などが判るようになること。また、健康産業に携わる者として基本的な体の仕組みを知ることによって正しく健康増進へ寄与できるようにする。				
授業概要	基本的な関節の動きや体の動きを深く理解できるようにする。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	マッサージの導入	19	人体の知識についての導入	
	2	バイオメカニクスのテコの復習から	20	解剖学 視覚	
	3	ハムストリングスのストレッチを例に、骨の動き、関節の動きを考える。	21	解剖学 聴覚	
	4	運動で起こりうるケガについての基本的知識①ハムストリングスを例に	22	解剖学 循環器系	
	5	肩周辺の筋肉のストレッチについて	23	解剖学 免疫について	
	6	腹部のインナーマッスル・腹横筋について	24	解剖学 呼吸器	
	7	大腰筋腸腰筋群の説明。体は立体であることを考える	25	解剖学 消化器系 口、食道、胃	
	8	腰痛などで話題になる反り腰について	26	解剖学 消化器系 腸	
	9	関節の可動域について。体の状況によって変わる可動域。	27	解剖学 腎臓	
	10	関節の可動域について。背骨の使い方。	28	解剖学 肝臓、胆のう、すい臓	
	11	真直ぐについての考察① 脚	29	エネルギーの代謝から人体について学ぶ①	
	12	真直ぐについての考察② 肩	30	エネルギー代謝から人体について学ぶ②	
	13	真直ぐについての考察③	31	運動と水分摂取	
	14	安全な体の使い方を考える。	32	マッサージ実技	
	15	ストレッチングやマッサージなど、人の体に力を加えることの怖さについて考える。	33	マッサージ実技	
	16	復習	34	復習・まとめ	
	17	復習	35	確認テスト	
18	確認テスト	36	前期・後期の総合まとめ		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格
	学習態度・出席率	40%			
	レポート				
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>10% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	2002年より整体業の店を開業しています。劇的に痛みを取ることで定評があります。著書に、「肩が痛い」「腕が上がらない」人のお助けBOOKが2022年9月・主婦の友社から、「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が2015年3月・翔泳社から出版されています。				

シラバス

科目名	スイミング指導Ⅱ		担当者名	加藤 健志	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	水泳種目に於いて、健康維持増進として適切な指導ができる知識を得る				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。				
授業概要	①プールサイドでのドライランドトレーニング(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 ②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	オリエンテーション	
	2	オリエンテーション2	20	健康実践指導者、実技試験対策4	
	3	オリエンテーション3	21	健康実践指導者、実技試験対策5	
	4	基礎技術1	22	健康実践指導者、実技試験対策6	
	5	基礎技術2	23	健康実践指導者、実技試験対策7	
	6	健康づくり運動の基礎1	24	健康運動実践指導者 実技試験 振り返り	
	7	健康づくり運動の基礎2	25	技術トレーニングの課題	
	8	健康づくり運動の基礎3	26	技術トレーニングの課題	
	9	健康づくり運動の基礎4	27	技術トレーニングの課題	
	10	水泳・水中運動1	28	技術トレーニングの課題	
	11	水泳・水中運動2	29	技術トレーニングの課題	
	12	水泳・水中運動3	30	水泳競技基礎・ルール	
	13	水泳・水中運動4	31	水泳競技基礎・ルール	
	14	健康実践指導者、実技試験対策1	32	後期実技試験 対策	
	15	健康実践指導者、実技試験対策2	33	後期実技試験1 200m個人メドレー	
	16	健康実践指導者、実技試験対策3	34	後期実技試験2 200m個人メドレー	
	17	前期実技試験 対策	35	確認テスト・まとめ1	
18	前期実技試験	36	確認テスト・まとめ2		
成績割合	テスト	30%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	40%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体験型学習>>20%				
講師プロフィール	JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している				

シラバス

科目名	発育・発達		担当者名	小林 啓三	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開 講 期	前期	授 業 時 間 数	36時間
開講学年	2学年	必・選	選択		
授業目的	運動の指導者に求められる各ライフステージに合致した指導内容を理解し、運動指導によるその効果の向上と障害発生の予防についての知識を深める。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ヒトにおける心身の発育・発達の特徴について、それぞれの発達段階(例:幼児期、少年期、青年期、壮年期、高齢期など)別に説明できる。併せて、運動指導の際の各発達段階における留意点についても解説できる。				
授業概要	ヒトの発育発達について、胎児期から出産を経て成長する過程を幾つかのステージに分け、そのステージ毎に身体機能の発育が顕著な項目に注目してその概要とその発育発達に伴い考慮すべき運動指導上の留意点などについて解説する。さらに、授業毎提示する課題について各自の意見を論理的に構築し記述することを求める。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	発育、発達などの意味を理解し、当該授業の必要性を理解すると共に、運動指導に必要な基礎的知識を得る。	19	運動の基本動作である立つ・歩く・走る・跳ぶ・投げるなどの基礎的事項を知るとともに、この時期に必要な外遊びの重要性について考える。	
	2	発育、発達などの意味を理解し、当該授業の必要性を理解すると共に、運動指導に必要な基礎的知識を得る。	20	運動の基本動作である立つ・歩く・走る・跳ぶ・投げるなどの基礎的事項を知るとともに、この時期に必要な外遊びの重要性について考える。	
	3	生体の恒常性(homeostasis)と生殖に関するホルモンについて理解すると共に、女性アスリートに配慮すべきことについて学ぶ。	21	第二発育急進期における骨の成長とその時期に生じやすい整形外科的障害について理解し、成長期の子供を指導する際の留意点を学ぶ。	
	4	生体の恒常性(homeostasis)と生殖に関するホルモンについて理解すると共に、女性アスリートに配慮すべきことについて学ぶ。	22	第二発育急進期における骨の成長とその時期に生じやすい整形外科的障害について理解し、成長期の子供を指導する際の留意点を学ぶ。	
	5	妊娠・分娩・誕生の過程について理解し、妊娠期間中の運動指導の基本的事項について学ぶ。	23	形態の発育が機能の発達に及ぼす影響を知ると共に、特に女性特有の形態変化とそれに伴う障害発生の予防法について学ぶ。	
	6	妊娠・分娩・誕生の過程について理解し、妊娠期間中の運動指導の基本的事項について学ぶ。	24	形態の発育が機能の発達に及ぼす影響を知ると共に、特に女性特有の形態変化とそれに伴う障害発生の予防法について学ぶ。	
	7	セクシャルマイノリティ(性的少数者)の現状と対応などについて理解する。	25	スキヤモンの発育曲線にある「リンパ型」に注目し、生体の防御機構である免疫系について学び、運動と免疫の関係を理解する。	
	8	セクシャルマイノリティ(性的少数者)の現状と対応などについて理解する。	26	スキヤモンの発育曲線にある「リンパ型」に注目し、生体の防御機構である免疫系について学び、運動と免疫の関係を理解する。	
	9	スポーツと性にかかわる諸問題のうち、トランスジェンダー女子と性分化疾患患者の競技スポーツへの参加について考える。	27	骨格筋の発育発達について、その構造や機能の基本を学び、思春期に顕著に成長する骨格筋の変化とトレーニングの関係を理解する。	
	10	スポーツと性にかかわる諸問題のうち、トランスジェンダー女子と性分化疾患患者の競技スポーツへの参加について考える。	28	骨格筋の発育発達について、その構造や機能の基本を学び、思春期に顕著に成長する骨格筋の変化とトレーニングの関係を理解する。	
	11	アドルフボルトマンが提唱した「生理的早産」説について理解し、この説の意義とされる「学習の必要」について考える。	29	老化に伴う身体機能の変化の特徴を知り、壮年期以降の運動指導時に留意すべき事項について理解する。	
	12	アドルフボルトマンが提唱した「生理的早産」説について理解し、この説の意義とされる「学習の必要」について考える。	30	老化に伴う身体機能の変化の特徴を知り、壮年期以降の運動指導時に留意すべき事項について理解する。	
	13	PHV尺度で代表される生理的年齢について理解する。併せて、体力評価のためなどの測定に継続が求められる重要性を知る。	31	高齢者における毎の特徴と共に、知的能力の変化を学ぶ。併せて、高齢者への運動指導時における配慮すべき事項を考える。	
	14	PHV尺度で代表される生理的年齢について理解する。併せて、体力評価のためなどの測定に継続が求められる重要性を知る。	32	高齢者における毎の特徴と共に、知的能力の変化を学ぶ。併せて、高齢者への運動指導時における配慮すべき事項を考える。	
	15	若年期の発育発達の特徴としての神経系に注目し、神経の基礎的理解と発育に伴う変化を学び、若年期での多様な動き体験の重要性を知る。	33	生活習慣と生活習慣病の関係を学びながら、生活習慣病予防のための「行動変容」について学ぶと共に、信頼される指導者像を考える。	
	16	若年期の発育発達の特徴としての神経系に注目し、神経の基礎的理解と発育に伴う変化を学び、若年期での多様な動き体験の重要性を知る。	34	生活習慣と生活習慣病の関係を学びながら、生活習慣病予防のための「行動変容」について学ぶと共に、信頼される指導者像を考える。	
	17	子供たちの心の発育発達(自己肯定感の構造や育成など)を知り、指導者として必要な資質を学ぶ。	35	この授業で学んだ、発育段階毎の身体の構造と機能の変化の特徴を明確にし、各発達段階における運動指導時の留意点を再確認する。	
18	子供たちの心の発育発達(自己肯定感の構造や育成など)を知り、指導者として必要な資質を学ぶ。	36	この授業で学んだ、発育段階毎の身体の構造と機能の変化の特徴を明確にし、各発達段階における運動指導時の留意点を再確認する。		
成績割合	テスト	期末試験時に筆記試験を行います。(成績割合 25%)	学習FB方法	前期・後期に成績表の配布	
	学習態度・出席率	授業中の発言や態度のほか、授業準備や整理整頓などの協力の姿勢等(成績割合)			
	レポート	授業毎に授業内容に関連した課題を提示。評価は、課題に対する内容や文章量などの視点から採点します。(成績割合 50%)	成績評価	出席率80%以上 S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0 R<<実働実践型学習>>0 A<<主体的参加型学習>>10 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	1949年 北海道生に生まれる 体育系大学を卒業し、医科大学で生理学と運動生理学について研究に従事する。その後、体育系大学にて教鞭をとり、多くの保健体育教師やスポーツトレーナーを育成する。				

シラバス

科目名	救急処置法Ⅱ		担当者名	石井 英一	
学 科	スポーツビジネス科		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	病気やケガ、不慮の事故、自然災害など何らかのアクシデントで人が倒れた際の対処法を“知っている”から“実践できる”へ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	不慮の事故や急病になった場合、医療機関に到着するまでの間、適切な救急処置が大切である。率先して適切な救急処置ができる人材を育成することを目標とする。				
授業概要	救急処置の理論と技術を習得し、現場で迅速且つ適切な処置ができることを目標とする。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス	19		
	2	RICE処置	20		
	3	感染対策	21		
	4	安全管理と事故対応	22		
	5	包帯法①	23		
	6	包帯法②	24		
	7	包帯法③	25		
	8	固定法①	26		
	9	固定法②	27		
	10	固定法③	28		
	11	搬送法①	29		
	12	搬送法②	30		
	13	搬送法③	31		
	14	実技テスト①	32		
	15	実技テスト②	33		
	16	まとめ 振り返り	34		
	17		35		
18		36			
成績割合	テスト	30%	学習FB方法		
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	20%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30 R<<実働実践型学習>>30 A<<主体的参加型学習>>30 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	公益財団法人 日本ライフセービング協会 指導員 日本赤十字社 指導員				